



蓼科高校フォトニュース

No. 93

平成31年4月30日発行



地域と共に知恵と勇気を育む 長野県蓼科高等学校 〒384-2305 長野県北佐久郡立科町大字芦田3652

平成から新しい時代へ、31年度入学式 挙行

新元号「令和」の発表から間もない平成31年4月5日(金)、平成最後となる31年度新入生94名の入学が許可されました。ご来賓・保護者の皆様が見守る中、宮澤和人校長は、次のことを話されました。

持ち味を磨き上げる努力をしてほしい

幕末の思想家・教育者である吉田松陰の「凡(およ)その一身、性を天に受け徳を心に具(具)す・そもそも人は一人ひとり天性を、人たる価値を天から与えられ、人格を心のうちに備えている。」を引用され、一人ひとりの努力を願いました。

社会の一員であることを意識しはじめてほしい

高校3年になれば選挙権が与えられる。まず、挨拶をすること。ちょっと無理をしても、笑顔で、相手を思う、明るい挨拶を実践してほしい。そこから、明るい心が、明るい社会が生まれる。

学びましょう。勉強をしましょう。

なぜ勉強するのか。勉強することで、希望や目標を実現するとともに、社会を必ずよくする、人びとを必ず幸福にすることにつながる。その例としてパキスタンのマララという15歳の女の子が、「女の子にも教育を」と訴えたことで撃たれたが、九死に一生を得た彼女は、「ひとりの子ども、ひとりの教師、一冊の本、そして一本のペンが世界を変える、」と訴え続け、17歳でノーベル平和賞を受賞したことを紹介されました。



学校長式辞



新入生代表の宣誓

宮澤校長は最後に、「今から8年前、東日本大震災がありました。復興が進んでいますが、今も多くの方が、答えのない悲しみの中にあります。世界には、戦争、経済の不透明さ、環境、食糧問題と様々な課題があります。その地球の、日本の、私たちが生活するこの地域の未来は、皆さんに託されています。そのためには、まず学びましょう。」と話されました。

そのあと、新入生を代表して早川唯南(はやかわ・ゆな)さんが、これから始まる高校生活に向けて、力強く希望と決意を込めた宣誓を行いました。

宣誓

春爛漫、一年中で一番美しく楽しい季節がやってまいりました。今日、この良き日に私達新入生一同は、大きな夢と希望をもち、平成最後の新入生として、この蓼科高校に入学することとなりました。

これから始まる新しい生活は、大きな期待に満ちていると共に、大きな不安にも包まれています。

私達は、この蓼科高等学校で過ごす、長いようで短い三年間の中で、どれほど辛く苦しいことがあったとしても、新しい仲間と協力し、助け合いながら乗り越えていきたいと思えます。

そして蓼科高等学校の教育目標にあるように、自分にしかない「個性」を大切に、将来の夢や目標に向かって、日々努力し学ぶことをここに誓います。平成31年4月5日 新入生代表 早川 唯南